



# Journal

## 第21号

2026(R8)年3月1日  
山形県立寒河江高等学校  
新聞部



卒業証書を受け取る樋口亮さん(3-2)



武田ももかさん(3-1)



藤原宏成さん(3-3)



星野冬弥さん(3-4)



小野晃暉さん(3-5)

## 仲間と灯した愛を胸に

### 光ある未来へ

昭藍会  
165名  
卒業

厳しかった冬の寒さが和らぎ柔らかな春の光が照らし始めた3月1日(日)、3年次165名が卒業式を迎えた。式には保護者と1、2年次が出席し、晴れ姿を見届けた。

一人ひとりが凛とした表情で卒業証書を手にし、3年間で培った絆を胸に新たな世界へと踏み出す。彼らの歩む道が、光り輝く未来へと続くことを心から願っていた。

式辞 相澤校長  
相澤校長先生はそれ  
ぞれの未来に思いを馳  
せる卒業生に激励の言  
葉を贈った。

「みなさんが生を受けてからの18年間で、日本社会は激動の中にありました。情報通信技術の飛躍的な革新の一方で未曾有の震災や世界的なパンデミックを経験し、ライフスタイルは大きく変化しました。そして今、私たちは人口の減少、気候変動さらには生成AIの台頭といった、正解のない予測困難な時代の真ただちに入ります。

『人生百年時代』を生きる皆さんにとって、学びは学校で完結するものではありません。社会に出た後も、自らの知性と人間性を絶えず磨き続け、変化を恐れずに、自分の人生の舵取りをしていく力が求められます。この3年間、みなさんは本校で『主体的に人と関わる力、学び続ける力』を



答辞を述べる

菊池陽大さん(3-5)

自己研鑽を積み、持続可能な社会の創り手として、社会に貢献することを期待しています。この学び舎で自分を高めてきた3年間が、皆さんの内なる光



晴れやかな表情で入場する卒業生

## 卒業会名 昭藍会

令和7年度卒業生の卒業会名は「昭藍会(しょうらんかい)」と決定した。

「昭」という漢字には明るく照らすという意味が込められている。昭和百年を迎えたこの時代は変化が目まぐるしく、価値観も揺れ動いた。その中で3年次は未完成のまま模索し続けた3年間だったといえる。そして「藍」という字は何度も染重ねることで深く澄んだ色を宿すこと

となり未来を照らし続けることを切に願っています。共に願ひ続けよう、「われらの未来ひかりあり」。

卒業生、誠におめでとうございます。

答辞 菊池陽大さん  
菊池陽大さんは次のように答辞を述べた。

「3年前、期待と不安を胸に入学した寒河江高校での日々は先生方や先輩方に支えられ、学びや部活動に励む充実したものでした。2年次には生徒会に入り、スローガン「ROBO」のもと、生徒主体の学校づくりを目指しました。受験という厳しい壁に

直面し、己の未熟さに苦しむ日もありましたが、ともに乗り越えた仲間が存在が支えとなり、今日という日を迎えることができました。卒業にあたり、心に決めていることがあります。それは、辛く苦しい時でも、その裏に隠れた希望を見失わずに生きていくという事です。「われらの未来ひかりあり」私たちはこれから、それぞれの道進みます。未完成であることを恐れず、暗闇を嘆くよりも灯りをともすものになり、先の光ある未来を信じ、新たな歩みを始めます。」



命名者の小泉諒泰さん(3-1)

命名者の小泉諒泰さん(3-1)は、インタビューで「この「藍」という字は3年次が様々な経験や行事を協力し合って何度も挑戦して一つの色として完成したということに掛けています。そこからこれから社会に出る皆さんは一人一人の色を持つと思うので人生でいろいろな経験を通して自分の色を染め上げていく欲しいです。」と語った。

新聞部では卒業生に高校生活での思い出や成長したと思う事などを聞いた。卒業生は、「この高校3年間では、探究活動などを通して多角的な視点で見る力を伸ばすことができたと思います。社会に出ても偏らない公正な視点で物事を捉えていきたいです。3年間の思い出は、3年次の体育祭がいっぱい印象に残っています。クラスの団結力が一番強まったと感じました。」と話した。

165名のこれからの未来がより良いものになることを期待したい。